



訪問看護版インターンシップがスタートして早3年が経過。今回、4校(2校が初参加)、11名の学生が6ステーションで実施しました。インターンシップ実施施設が県内15か所になり、参加しやすくなりました。卒業すぐでなくても、長い職業人生の中で、就業先として訪問看護を選択するきっかけになるといいと考えています。

参加者の声をまとめました。とても有意義な時間を過ごすことができました。次はあなたの参加をお待ちしています。

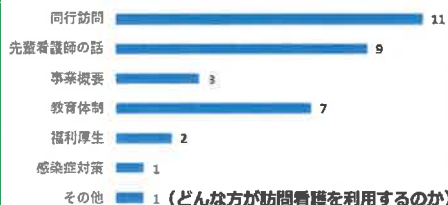
### 1 インターンシップはどこで知りましたか



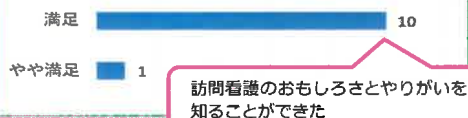
### 2 参加の動機



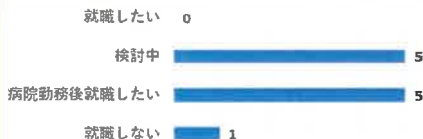
### 3 インターンシップのどんなところに興味がありましたか



### 4 インターンシップは満足しましたか



### 5 訪問看護ステーションへの就職について



病棟実習で、自身の看護観と現場のギャップに少し落ち込んでいましたが、今回のインターンシップを通してそれぞれの現場には求められていることに違いがあって、場所によっては私が理想とする看護が提供できる可能性もあるとわかり、これからは努力しようと思えました。(大学2年生)

皆さんとても親切で、楽しく参加させていただきました。同行訪問もお話も何もかもが新鮮で訪問看護に憧れを持ちました。卒業すぐに就職するか病院勤務を経験するか悩み中ですが、いつかは就職したいです。(専門学校1年生)

在宅看護の現場を見てたくさん学びと刺激を受けました。複雑な問題に直面することも多く、看護師としての知識や経験の幅を持っているから対応できるのだらうなと思い、かつよかったです。いつか私もこの分野で働きたいと思いました。(大学4年生)



### 所長の感想

- 訪問看護を早い段階で経験することは、学生が働く場所として興味をもち、意欲深いと感じている。参加する学生も興味があるので、熱心である。
- 知識だけでは在宅看護は十分には行えないと思う。いろんな経験することで、病棟や施設での看護が訪問看護に生かせる。
- 学生の訪問看護への思いを聞くことができた。新卒で訪問看護に就職できるかという質問に対しては、様々な看護技術やアセスメント力・判断力が必要であり教育体制が整っているステーションであれば就職が可能かもしれないと話した。
- あまり医療処置がおおい利用者へ訪問すると「自分にできるかな」と不安になる人も多いので、このような人ばかりではないと説明した。

## 訪問看護ステーションで活躍するスペシャリストたち

「できるだけ住み慣れた地域で暮らしたい」「家族と一緒に過ごしたい」、そんな思いに応えるため訪問看護師は日々奮闘しています。今回紹介する小野寺さんは、「食べることは生きる希望」と考え、他職種と協働しながら、安全に利用者さんの「食べたい」気持ちに寄り添う看護を提供しています。

### シリーズ第3弾 摂食嚥下障害看護認定看護師

勤務先：広島県看護協会訪問看護ステーション「そよかぜ」(呉市広大新開)  
2012年より訪問看護に携わる  
2019年 摂食嚥下障害認定看護師資格取得

## 小野寺 粧子さん



### はじめに自己紹介をお願いします。

呉市にある訪問看護ステーション「そよかぜ」で勤務しています。看護師としては18年、「そよかぜ」では10年働いており、小児、医療的ケアの必要な方、障害や慢性疾患の方、看取りの方などの利用者さんに訪問しています。スタッフ総勢15名で丸となり、地域に根差したステーションとして頑張っています。



### 訪問看護師になったきっかけをお聞かせください。

新卒時から総合病院で勤務していました。異動が多かったため様々な診療科を経験していく中で幅広い知識を得ることができました。出産により退職し、職場復帰する際にナースセンターの方から訪問看護でその知識を活かせるとの助言をいただいたことがきっかけです。

### 訪問看護ステーションでの普段のお仕事の様子をお聞かせください。

毎日、5~6件の訪問に何っています。認定看護師として、利用者さんの嚥下の評価や嚥下訓練等で同行訪問を行うこともあります。他に学生指導、教育委員としての仕事をしています。

### 摂食嚥下障害看護認定看護師の資格を取得したきっかけはどんなことでしたか。

私自身食べることが大好きです。訪問の中で、食べたいのに食べれない方をたくさん見てきました。「牛乳が飲みたい」「ラーメンが食べたい」、食べることは利用者さんの生きる希望に関わる大切なことなのに自分には十分な摂食嚥下に関する知識がないことを痛感したからです。



### 訪問看護のなかで、資格はどのように生かされていますか。

認定看護師になったことで、「なぜそうなのか」「どうしたら解決できるのか」ということを強く考えてケアを行うようになりました。摂食嚥下障害看護のみならず、この考えはすべてのケアに共通するように思います。

### 最後に、今後の抱負や、訪問看護師を目指す方へのアドバイスをお願いします。

「在宅見ずして看護なし」と思っています。どこにおられる患者さんにも、ご自宅やご家族、これまでの生活などの背景があります。その方の背景に携われることが訪問看護の魅力だと思っています。その中で専門性を発揮できるということは、看護師としてこの上ない喜びです。認定看護師教育課程は想像よりずっと大変でしたが、それ以上に学びの多い場でした。これからも学びを深めたいと思っています。

訪問看護に興味のある学生さんへ  
次回のインターンシップは令和5年の7~9月です！  
令和5年度は県内20か所で開催します。ぜひご参加ください。

